



生育状況について(7/13現在)

7月13日現在の管内の生育の平均はあきたこまちで葉令が10.6葉、茎数が414.7本/m²、葉色が43.5となり、ひとめぼれで葉令が10.4葉、茎数が456.4本/m²、葉色が40.2となっております。今年の生育の傾向を平年と比べると草丈が長くて茎数が少なく、葉色が濃い状況となっております。今後の穂肥については葉色が基準より濃く草丈の長い圃場については倒伏の恐れがありますので追肥する量に注意して下さい。場合によっては幼穂形成期の追肥を見送り、減数分裂期で1回だけ追肥するなどの工夫をする必要があります。

今後の水管理について

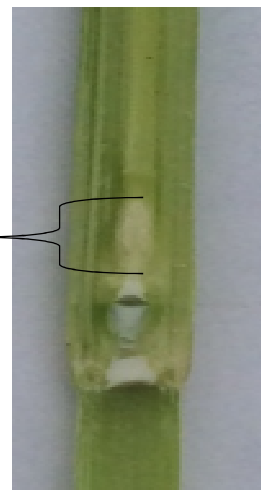
稲の生育ステージは幼穂形成期に突入しています。また早いところでは減数分裂期に入っています。幼穂が確認できる圃場でまだ中干しを行っている場合は、間断かん水へと切り替えて下さい。

間断かん水は基本的に2日間入水し、3日間落水としますが圃場によって水持ちの良し悪しがありますので圃場状況に応じた水管理をするようにしましょう。

この時期は水を多く必要とする時期ですので適正な管理で土壤に水分と酸素を交互に供給し、稲体の活力を維持しましょう。

また、出穂後は水深5cm程度で10日間ほど湛水状態とし、その後は2～3cmの浅水、間断かん水として下さい。

写真の幼穂の実物は5ミリ程度



いもち病防除について

しんせい管内でもいもち病の発生が確認されています。病斑を見つけた場合はただちに薬剤による防除を行って下さい。葉いもち病の発生が出穂してからの穂いもち病の発生を助長しますので葉いもち病防除の徹底をお願い致します。

★予防剤

ラブサイド剤	粉剤	10aあたり3～4kg	フロアブル	10aあたり100ccかかるように1000倍（葉面散布）
ビーム剤	フロアブル	10aあたり100ccかかるように1000倍（葉面散布）	※コラトップ剤	穂いもち防除 出穂7日～15日

★治療剤

ブラシン剤	粉剤	10aあたり3～4kg	液剤	10aあたり100ccかかるように1000倍（葉面散布）
-------	----	-------------	----	------------------------------

萌えみのい先進地視察研修を行いました！！

7月18日(水)にJA秋田ふるさと管内にて萌えみのり栽培の先進地視察研修を行いました。しんせい管内でも業務用から水田活用米穀までの幅広い需要への対応、品種特性を活かした転作後の推奨品種として作付けを行っております。

JA秋田ふるさと管内は萌えみのりの作付けをいち早く行い栽培技術も確立され、コンテストでも収量、食味部門等で上位に入っています。

今回の研修では農家さん、職員の方との意見交換を行い、有意義な時間とすることが出来ました。



↑ 圃場を見ながら意見交換をしています



JA秋田ふるさと管内の萌えみのり直播栽培圃場です。設定は50株植えで播種しております。10aあたりの播種量は2kgと非常に少ない播種量にも関わらず、発芽率が良く、茎数も多く理想的な生育となっています。毎年平均的に700kgを越える収量を取ることができるようです。また、萌えみのりはいもち病に弱い品種であることから防除も徹底して行っていました。

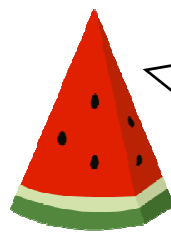
～熱中症対策をしましょう～

全国的に猛暑が続き、秋田県でも暑い日が続いております。この時期は熱中症の危険があります。水分補給や適度な休憩はもちろんですが、食べ物による熱中症対策も効果的になります。

★効果的な食べ物



梅干し
クエン酸、塩化カリウムが豊富で塩分補給と疲労回復に効果的！



スイカ
水分、糖分、ミネラルが豊富で水分補給にピッタリ！



豚肉
ビタミンB1とタンパク質が豊富で疲労回復と夏バテ防止に効果的！



夏野菜
水分が豊富。ビタミンB・Cも豊富。体を冷やす作用と疲労回復効果に期待！

稲作マガジンをご活用下さい！

稲作マガジンの登録件数は今年度の配信開始から徐々に増えつつあります。稲作に関する情報から天候等による災害時の対応情報などを随時配信してまいりますので栽培等の参考としていただけるようお願い致します。なお、登録はJAホームページから専用ページへアクセスするか、右記のQRコードを読み込んで登録して下さい。

